



平成11(1999)年10月の集中豪雨により雪谷川は全域で氾濫し、特に軽米町では大きな被害を受けました。災害からの復旧、復興が急務となり、「河川災害復旧助成事業」や「河川災害復旧等関連緊急事業」が平成11(1999)年から平成16(2004)年まで行われ、その中で多自然川づくりの手法が全面的に取り入れられ、多様な河川環境を保全するとともに、魚や底生生物が自由に移動できるような河川整備が行われました。

雪谷川の川づくりは、多自然川づくりの専門家からの意見を取り入れるとともに、計画段階から住民が参加し、「安全安心な川づくり」、「自然豊かな川づくり」、「地域づくりと川づくり」に加え、「住民参加の川づくり」を大きな柱とした計画が策定されました。また、「中学生ワークショップ」を開催し、町の将来を担う子供たちからの提案も川づくりに反映されています。

雪谷川では、治水安全度の向上はもとより、良好で住民に親しまれてきた自然環境を保全するとともに、多様な水際や瀬・淵の復元を目指した整備が行われました。

整備後も地域住民が主体となった河川清掃や植樹ボランティアなどの河川愛護活動が盛んに行われ、「人と自然が共生しみんなでささえ育む雪谷川」を目指した岩手県を代表する川づくりの事例の一つです。



中学生ワークショップ



平成11年の被災状況



早瀬・平瀬・淵の復元